

ふるさとの昔話

猿ぼんどう



ことしは 猿年  
猿にまつわる 昔話の  
猿ぼんどう。  
猿が 座っていたと言う  
大きな岩は昔  
三ッはあつたそうです。

男の

料理



究極 冬の大根煮

「男子厨房に入らず、なんて言葉は、古い古いノうまいものを、自分でつくって食べる快感を知った、米山孝さん(57歳)。これぞ男の料理「冬の大根煮」のご紹介。

☆材料

- ・葉っぱもついた大根ど〜んと1本。
  - ・大きい土なべ。
  - ・インスタントでいいが上等のだし。
  - ・しょうゆ、酒、みりん、塩、砂糖。
- ①大根は、女性を扱うごとく丁寧に、かつまた、きれいに洗う。
  - ②皮もむかず、面取りもせず、3分の1の輪切りにする。
  - ③土なべに多目の水を入れ、大根をほうり込んで、沸騰するのを待つ。
  - ④沸騰したら用意の調味料で、好みの味をつける。ただし、薄味で。
  - ⑤あくを取る。
  - ⑥弱火にして、やわらかくなるのをじっと待つ。葉っぱも入れる。
  - ⑦この間に、つけて食べる秘伝ユズみそをつくる。落花生とゴマ入り。
  - ⑧煮えたら、男たる者、皿に盛るようなことはせず、なべごと食卓へ。



どこか金子信雄さん風の  
米山 孝さん(今泉2)

大洲中学校の北側に、大洲新田に通じる細い山道があります。道の両側は林になっていて、昼でも薄暗かったため、村の人たちは何となく通るのが嫌でした。いつしか、ここに一匹の大猿が住みついてしまいました。大猿はひとりぼっちだったので、よけいに心がすさんだのか、悪いいたずらをするようになりました。

その大猿はどこで覚えたのか、火打ち石で火をおこすことを知っていました。あるとき、木に登った大猿は、人が通るのをじつと待っていました。すると、荷物をしよつた女の人が通りかかったため、「待っていました」とばかりに、火を真上から投げ落とししました。びっくりした女の人は、「きゃあ〜」と悲鳴を上げて逃げて行きました。

大猿は、それがおもしろくてたまらなかつたのでしよう。それからというもの、毎日そんな

いたずらを繰り返すようになりました。大猿のいたずらが、だんだん激しくなってきたので、村の人たちは、とうとう大猿を生け捕りにしてしまいました。

□□に、「殺してしまおう」と言っつのを聞いた大猿は、両手で拝みながら、「もう決して、こないたずらはしないから」と、涙を流して心からあやまりました。

殺すのもかわいそうだと思つた村の人たちは、「今度やつたら、もう絶対にゆるさないからな」と言いながら、そのまま放してやりました。心を入れ替えた大猿は、大きな岩の上に座つて、道の番をするようになりました。それからは、村の人たちは薄暗い道でも、安心して通れるようになったといふことです。そして、この道を「猿番道」(猿ぼんどう)と呼ぶようになりました。大洲地区に伝わる、ふるさとの昔話です。

ブラジルのお正月

市内で一番多い外国人は、ブラジル人。三和工業(株)におじゃまして、ブラジルのお正月について伺いました。

— どんな年越しですか。

「31日は、お昼で仕事が終わります。いろいろな紙で紙吹雪をつくって、窓からまきます。皆、ダンスパーティに行ったり、何かいいことが起きるようにと、白い服を着て新年を迎えます」

— どんな物を食べますか。

「サンパウロのスーパーでは、おもちゃお節料理も売っています。日系人のお正月は、日本とほとんど変わりません」

おめでとう FELIZ ANO NOVO!



こちら編集室

来富中のオーシャンサイド市長一行が連発した言葉は何と言っても Very good! と Wonder full. 連日顔を見せてくれた富士山。訪問した幼稚園や学校の子供たちの笑顔。親切な市民。とりわけ「水」と「ごはん」を絶賛。違いのわかるご一行でした。